

「そばづくりを通して、生物育成の技術を学ぶワークショップ」

1. はじめに

本プロジェクトは将来技術科教員志望の学生を対象に、生物育成の技術及びその指導法についてそばの栽培を通し、学ぶことを目的としている。

そばの品種には、信州大学農学部で開発された「信州大そば」を使用することで、地域との連携が期待できる。

これらを踏まえ、目的達成に向けて3つの目標を設定した。

1. 地域作物を栽培することにより、地域の気象環境、生物環境、土壌環境について、体験的に学ぶ。

2. 栽培にスマート農業を取り入れ、これからの農業についても学ぶ。

3. 企画者だけが講義をするのではなく、指導方法について学ぶことができるように、参加者にも講師として参加してもらう。

2. 事業計画

本ワークショップは全5回の活動を予定している。どのタイミングでも参加することを可能とし、classroom, YouTube等を用いたオンデマンド教材も用意し、参加者の補助も行う(表1)。

表1 講義内容及び活動内容 (全5回)

	講義タイトル	時期
第1回	「そばについて知り、そばを植えよう」	8月上旬
第2回	「スマート農業について知り、水やりを自動化しよう(間引き)」	8月上旬
第3回	「そばの実をつけるために、受粉について知り、実行しよう」	9月～10月
第4回	「そばの実を収穫し、そばづくりをして、そばを食べよう」	11月
第5回	「授業でそば作りをする際のイメージをまとめよう」	11月

3. 安全面

そばは微量でもアナフィラキシーショックなどの重篤な症状を引き起こしやすいことから、国内の食品表示基準において必ず表示しなければならない特定原材料のひとつとして指定されている。参加する学生をはじめ、プロジェクトメンバーなどは参加前にアレルギーについて必ず確認する。

本プロジェクトの活動拠点場所は、信州大学教育学部木材加工室の裏を予定している(図1)。主にプランターの設置の際は、壁際に寄せるなどして、避難経路などの確保も留意する。



図1 信州大学教育学部木材加工室裏

4. 経費

育成環境の調節に関しては比較し学べる機会を設けたい。そのため、必要に応じた雑費に水耕栽培との比較及び検討のため、液体肥料を使うことも考えている(表2)。

表2 本プロジェクトにおける経費内訳

番号	品名、工事名、用務先等	規格、その他内容等	数量	金額(円)
1	プランター		20	11,400
2	スプリンクラー		1	10,993
3	信州大そば		1L	2,000
4	自動灌漑タイマー		1	3,213
5	赤玉土		240L	18,080
6	花・野菜の培養土		240L	7,980
7	綿棒		1箱	100
8	石臼セット		1個	16,800
9	支柱や、めんつゆ等の必要			
	に応じた雑費			8,000
計				78,566